

映画「伊藤千代子の生涯」制作開始

母校・二葉高 同窓会の有志 支援する会が発足



伊藤千代子（上から2列左から2人目）、土屋文明（最上列右から2人目）、平林たい子（最下列右から3人目）（「二葉百年のあゆみ」より）

諏訪市湖南出身で、人々の幸福の実現のために社会の矛盾と闘い、志半ばで倒れた伊藤千代子（1905～1929年）。その生涯を描いた劇映画「ころぎしつたふれし少女よ伊藤千代子の生涯」の制作が、映画企画制作会社「ゴゴビジュアル（埼玉真所沢市）」で始まった。千代子の母校・諏訪二葉高校（諏訪市）の同窓会有志は「大先輩は粘り強く正義感あふれ、まさしく諏訪人気質。同窓生として応援したい」と、「映画制作を支援する会」（宮川秀世会長）を立ち上げた。募金活動などを展開する。（宮坂早苗）

伊藤千代子は2歳の時母と死別、養祖母の元に育てられた。諏訪高等女学校（現諏訪葉高）に入学、同高校長の土屋文明の教えを受け、同級生には後の作家平林たい子がいる。卒業後高島尋常高等小学校に2年間勤務、子どもたちにかくさんの愛情を注いだ。その後仙台市の尚絅女学校を経て、20歳で東京女子大学2年に編入、社会科学研究会に参加し、学んだことを平和な日本をつくるために生かすことを目指した。志を同じくする浅野晃と結婚、共産党に入党。28年市ヶ谷刑務所に収監され、翌年体調を崩し24歳の短い命を閉じた。「制作を支援する会」の発足は、昨年の諏訪二葉高同窓会東京支部の総会で映画企画を知ったことがきっかけとなった。映画総監督を務める桂壮三郎さんらに改めて伊藤千代子について学んだ。宮川会長は「同窓生の立場で支援したい。先輩の生涯や土屋文明

との関わりを知つてもうらう機会になれば」と話している。

募金は8月31日まで。1口1000円（何口でも可）。ゆうちょ銀行「映画『伊藤千代子の生涯』制作を支援する会 振替口座00014000731533」へ。問い合わせは事務局の五味のりほさん（メールkonikomi255@yahoo.co.jp）へ。

鈴なりの白い花見頃

茅科高原ブルーベリー農園
茅野市米沢の茅科高原ブルーベリー農園（共田正夫代表）で、ブルーベリーの花が見頃

旧石器時代 富士見町で

井戸尻考古館 歴史

富士見町井戸尻考古館は、富士見町の歴史年表を作製した。縄文人が生きた約2万年前、旧石器時代から現代までの主な出来事、災害、文化財に関することを世界、日本の歴史と並べて一覽にした。町